

## 平成26年度 部局自己評価報告書(病院)

**Ⅲ 部局別評価指標**

- 1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果  
 ※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

● **大学教育改革の支援プログラム等による教育活動の取組**

- 1) 大学病院人材養成機能強化事業（周産期医療に関わる専門的スタッフの養成）（文部科学省）

「周産期医療若手・女性医師支援プロジェクト」について事業を遂行した。

（事業年度；平成21年度～平成25年度 平成25年度事業費：36,408千円）

事業概要：産科、新生児科における医師数の減少と女性医師の増加という周産期医療の現状に対して、本プログラムでは、産科・新生児科医師を増やすための医学生、研修医への積極的働きかけ（「命の誕生」プロジェクト）と、若手女性医師の就業継続と復帰支援（「TOL09」プロジェクト）の2つを柱とする取組みである。「命の誕生」プロジェクトでは、医学部学生の産婦人科臨床実習および臨床研修医のトレーニングとしてスキルズラボでの研修を取り入れた臨床修練・高次修練プログラムを推進するとともに産科救急実技講習（ALS0）などのトレーニングコースの拡大とトレーニングコース指導者の育成、およびローテート研修による「総合周産期実践医」の養成の拡充を図り、5年間通算で総合周産期実践医25人の育成という目標が達成された。「TOL09」プロジェクトでは、女性医師が妊娠出産・育児中も継続して就業できる環境を整えるため、育児短時間勤務者枠を適用した復職支援や、一時的に離職した女性医師がスムーズに復職し、希望があれば、産婦人科専門医の資格、あるいは医学博士号取得が可能となる再教育・再研修システムの拡充を行った。その柱となるのが、平成23年度より実施している育児中の女性医師を対象とした「お昼の勉強会（女性医師アソシエ）」であり、様々な多彩なテーマが設定され、平成25年度は11回（通算23回）開催された。気軽に参加できる勉強会を自主的な形で行うことにより、復職前及び復職後の研修へのモチベーションが大いに高まり、ロールモデルとすべき具体像も確立され、女性医師に対する大学内での研究サポート体制への信頼感が醸成された。これら東北大学病院での周産期医学教育の拠点化の拡充は、随時、ホームページなどで公開し、大きな反響を得ることができた。

- 2) 大学病院人材養成機能強化事業（看護師の人材養成システムの確立）（文部科学省）

「看護キャリアプロモート支援システム開発」について事業を遂行した。

（事業年度；平成21年度～平成25年度 平成25年度事業費：19,526千円）

事業概要：看護師の臨床看護実践力習得のための教育力の向上と、キャリアパスの自己選択を自らプロモートし、最適なキャリアパス構築を支援する取組である（看護職キャリアプロモート支援システム）。自己のキャリアをプロモートできるようにするために作成した手順書「キャリアプロモートガイドブック」を周知するとともに、対象者別（育児と仕事を両立している看護職、キャリアについての悩みを持つ看護職、AOBA ナース・プログラム修了者）にキャリア相談会「キャリアプロモートの集い」を開催するなど、キャリア発達支援の強化に努めた。また、職員情報の一元化とスタッフ個々のキャリアパスの自己選択を実現するためのITシステムとしてのキャリア管理システム「キャリ・プロ・ナビ（キャリアプロモートナビゲーションシステ

ム)」を構築した。

また、教育力の向上のため、教育技術の習得プログラムである AOBA ナース・プログラムの全コース（初級・中級・上級 1・上級 2）を稼働し、教育力と実践力の基盤づくりをすることができた。上級 1・2 コースの調査結果から、受講者は概ね目的とした実践力と教育力に到達しており、それに適った行動をとることができていることが確認された。また、保健学科と協働でプログラムを開発すると共に、活発な人事交流を行い、臨床および基礎教育の看護実践の習得能力向上を図った。

- 3) 大学病院業務改善推進事業（文部科学省）「東北大学病院業務改善推進事業」について事業を遂行した。

（事業年度；平成 25 年度 平成 25 年度事業費：44,660 千円）

事業概要：近年、医師の過重労働が問題視されているところであり、医師と看護師等と事務職員との間での役割分担について、効率的な運営の必要性が求められているところである。本事業により、医師事務作業補助者を雇用（請負業務）し、外来及び病棟に配置することで、医師や看護師の業務と医療事務の業務分担の推進を図った。医師事務作業補助者の雇用を行うことにより、医師の書類作成などの業務の負担軽減を図り、本来の業務に専念できる環境を整え、医療現場における安全や質の向上を図ることができた。また、定期的に研修会を開催し、医師事務作業補助者のスキルアップを図ることで、役割分担を推進することができた。

- 4) チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立「高度専門医療チーム活性化システムの開発」について事業を遂行した。

（事業年度；平成 23 年度～平成 25 年度 平成 25 年度事業費：12,240 千円）

事業概要：本事業は高度医療専門集団としての医療チームの構築を目指し、目的別に編成される独自の構造に鑑みた①コーチング理論に基づくコミュニケーショントレーニング(CT)の継続的な実行。②①から得たフィードバックを反映させた CT プログラムの開発を目的とする。成人教育手法を用いた CT 実施により、院内にコミュニケーションのハブとなり、チームをまとめあげるリーダー的な人材の育成を行った。「現場」と「学習の場」の乖離を防ぐ特徴的な学習構造により、職種・部署を超えたコミュニケーションが常態となる組織を作ることを目的とし、医療連携を促進する体制が CT を進行しながら構築されることで短期間で成果が期待できるものである。実施後の実態調査においては、CT プログラム受講者及び協力者を対象としたアンケート調査により、現在の受講者の自己評価と周囲の他者評価のギャップを確認し、受講者が自己成長のために活用できるような改善ポイントを抽出し、組織活性度の改善に反映させることができた。また、本学における CT プログラムガイドラインが作成され、院内の他部署・他チーム医療にて順次取組み、高度医療を促進させることができた。

- 5) 未来医療研究人材養成拠点形成事業「コンダクター型総合診療医の養成」について事業を遂行した。

（事業年度；平成 25 年度～平成 29 年度 平成 25 年度事業費：79,460 千円）

事業概要：本事業は、高度医療の要否を判断し患者をトリアージしうる最新の医学・医療知識を有し、かつ地域包括ケアを統括するためのリーダーシップを発揮し、地域発臨床研究を推進

できる「コンダクター型総合診療医」の養成を目的とする。具体的には、東北大学病院と本プログラム参加医療施設である「地域教育拠点」とを ICT で連結し、プログラム受講者である各地域教育拠点の後期研修医・医師に対し、東北大学は専門医療や医療マネジメントに関する専門知識・スキルおよびリソースを提供し、かつ地域発の臨床研究を指導・サポートを行い、地域教育拠点は実践的臨床トレーニングや円滑な医療マネジメント学習のためのオンザジョブトレーニングを提供する。これにより医師は地域にしながらキャリア形成およびスキルアップでき、さらに本学大学院に社会人入学したうえでこのプログラムを選択すれば、学位取得も可能となる。本年度は、独立に行われてきた先端臨床医学教育、実践的総合診療トレーニング、医療マネジメント学習を大学病院と地域病院とが一体で実施する点、地域医療に従事しながら医療スキル、医師・研究者キャリアアップを達成するために、「コンダクター型総合診療医プログラム運営委員会」の設置開催、教育拠点病院との協議等を実施することにより、次年度以降の本プログラムの体制整備を図った。

### ● 高度な先進医療の実践と適切なケアサイクルの確立（診療に関する取組）

#### 1) ハイブリッド手術室の新設

平成 25 年 4 月に東病棟 3 階へシーメンス社製最新心血管撮影装置「Artis Q」とマック社製高性能手術台「MAGNUS」を統合した、部屋面積 96.950 m<sup>2</sup>の「ハイブリッド手術システム」を導入し、心臓血管外科、移植再建内視鏡外科、循環器内科、放射線診断科等の診療科が協働して、外科手術とカテーテル治療を組み合わせた治療（具体的には、大血管および末梢血管疾患に対する低侵襲なステントグラフト治療など）を行っている。（平成 25 年度：ステントグラフト内挿術：106 件）

#### 2) 歯科インプラントセンターの設置

平成 25 年 4 月に歯科インプラントセンターを新たに開設し、インプラント治療に関わる複数の診療科を連携させ、より良質な歯科インプラントチーム医療の提供を可能とした。

インプラント専用手術室、歯科用ユニットを配した個室、CT 画像診断、ガイドドサージェリーおよび CAD/CAM システムなど最新の設備を整え、必要に応じて病院手術室や一般病床なども活用し、医療安全に重点を置いた診療を進めることとしている。

### ● 医学・医療の発展を推進する指導的人材と人間性豊かな医療人の育成

#### 1) 社会の要請に応える医療人養成

東北大学クリニカルスキルラボを十分に活用し、医学部学生、臨床研修医のみならず多職種 of 医療従事者を対象として、シミュレーターを用いた多種多様なトレーニングコースを開催し、他機関の医療従事者を含め、12,000 名を超える利用があった。

#### 2) 先端医療技術トレーニングセンターを設置

平成 25 年 9 月に開所した東北大学病院先端医療技術トレーニングセンターを活用して、全国の研修医や上級医師、医療従事者、企業等を対象に、動物を使用した外科手術手技トレーニング等、基本から実践までの幅広い外科手術手技・知識の習得を促進するとともに、先端医療技術の発展・普及及び医療の安全性向上に貢献した。

### ● 臨床研究推進センターを中心とした先進医療体制の整備と医薬品の開発促進等

- 1) 平成 25 年 4 月に厚生労働省臨床研究中核病院整備事業として、事業期間 5 年間で医療機器開発拠点形成の確立及び人員体制整備と東北 6 大学からなる東北トランスレーショナルリサーチ形成拠点ネットワーク (TTN) の臨床研究ネットワーク機能の確立する目標を掲げ、事業の採択を受けた。また、組織名称についても平成 25 年 10 月より臨床研究推進センターへ名称変更を行い、実働に沿った組織内整備も行った。
- 2) 開発推進部門のプロジェクトマネージャーを 4 名→8 名、臨床試験データセンターのデータ管理支援の強化のため、データマネージャーを 7 名→8 名、知財創出部門のため知財支援スタッフを 2 名→4 名にそれぞれ支援体制の強化を行った。また、新たに TTN の支援機能として、臨床研究ネットワーク部門を設置し 4 名の支援体制でスタートさせた。
- 3) 本学発の開発シーズ「超音波を用いた革新的非侵襲性血管新生療法の開発」「難治性潰瘍を伴う強皮症、混合性結合組織病、全身性エリテマトーデスに対する低出力体外衝撃波治療法」の臨床試験を開始した。
- 4) 治験責任医師・分担医師のライセンス講習会を 7 回に渡り実施した。
- 5) 橋渡し研究支援を行うための人材育成機能の強化・整備の一環として、大学院医学系研究科 TR 人材養成プログラム「TR 特論 I、II、III、IV」「TR トレーニングコース」、更に今年度から保健学科の学生を対象に病院実習に CPC の講義についても新たに組み入れて実施した。
- 6) 東北地区 TR ネットワーク実務者会議を 2 回 (H25.8、H25.11) 開催し、これまでの実務者会議での検討を踏まえ、今後はタスクフォークを設置し、ネットワーク事業の運用展開に向け、更に内容を精査して行くこととした。
- 7) 東北大学発の医療イノベーション創出のため、センター内にバイオデザイン部門を設置し、東北大学メディカルサイエンス実用化推進委員会との連携のもとで、東北大学発の医療イノベーション創出のためのサポートを行う部門を設置した。
- 8) 東北大学メディカルサイエンス実用化推進委員会の取組みとして、関係 15 部局を一堂に会して、第 1 回東北大学メディカルサイエンス・シンポジウムを平成 25 年 8 月に開催し、各部局における有望なシーズ紹介を行い、活発な意見交換を行った。

### ● 社会に開かれた広報体制

#### 1) 広報室による情報発信

病院と地域社会との信頼関係の構築を行うため、広報室を主体とした取組を強化した。

平成 25 年 10 月には病院ホームページをリニューアルし、利用者目線での情報配置やナビゲーションの明確化を行うとともに、公式フェイスブック、ツイッター、動画チャンネルを開設し、一般市民に向けて広く情報発信を行なっている。また、病院スタッフの顔が見え、組織横断的な取組みを親しみやすく紹介することを目的に、広報誌”hesso”を創刊したほか、医師募集のリクルート活動や、記者懇談会の開催によるメディア対応についても強化している。

#### 2) 市民公開講座を開催

一般市民に本院の診療内容を広く公開し、理解と支援を得ることにより、地域医療連携意識を啓発し、機能分化の促進につなげること及び市民の理解と支援を得て、より高度な医療を展開し、研究・教育に反映することを目的として、平成 20 年 9 月より「東北大学病院市

民公開講座」を開催している。平成 25 年度は 10 月に川内萩ホールにおいて「あなたの目年齢を若く保つために～東北大学からの発信～」(参加者数：約 1050 名)をテーマとし、近視の予防法や治療法、自分では気が付かない目の老化、緑内障検査の進歩や最先端医療等についての講演を行ったほか、別会場にイベントコーナーを設け、ビジョンバン見学・検診、最新の画像診断装置 OCT やレーザースペックル体験、盲導犬体験などを行い大変好評であった。今後も当院の取組を理解してもらう情報提供の場として、様々な企画を検討していく予定である。

#### ● 安定した病院財政基盤の確立

- 1) 病院収益を確保するため、診療稼働額、病床稼働率、診療単価等の月別・診療科別目標値を設定し、経営戦略企画室会議において毎月の稼働実績額等の分析・評価を行った。
- 2) 病院収益の増加を図るため、各診療科等から提案された事業計画についてヒアリングを行い、経営戦略企画室会議において審議・検討のうえ、「生理検査センターの整備・拡充による検査件数の増」「不整脈カテーテル治療システムアップグレードによる診療件数の増」など、実現性の高い事業を選定・実施した。
- 3) 医薬品については価格交渉及び随時の価格見直しに加え、25 年度は価格交渉を効果的に行うための仕組みの検討を行うなど、購入経費の削減に努めている。また、医療材料については経費率上昇に影響が大きいと思われる材料を洗い出して、前年度との使用実績数の比較などの分析を行った。一部の診療材料では、使用診療科の協力を得ながら切替え等を含めた検討を行い、価格低減に成果を上げるなど、経費削減に取り組んでいる。